

## 命の重さ・尊さを感じることに

～『あなたを産んだとき、神様に感謝しました。あなたの顔を見られずに安らかに旅立ったお母さんに感謝しました。どれほどあなたの誕生がうれしかったか、分かりますか？言葉は悪いけれど、“あなたのためなら死ぬる”と本気で、しかも自然に思えます。あなたの幸せが私の幸せ。一度きりしかないあなたの人生を、あなたらしく、生き生きと前を向いて歩いて行ってね…。』～

自分が親になって初めて分かる、「親の気持ち」と「子どもへの思い」。自分が子どものときは、なかなか気づけないもの。子どものときは、親に反発したり、“どうせ分かってくれない”と拒絶したり、親の存在自体がウザったかったり…。でもそれは、特別なことではなくて、誰でも抱くような感情でもあって。

自分で自分の命を断とうとすること、他人の命を奪おうとすること、子どもの社会の中でも起きている、命を消してしまおうとする行為。どう理解すればいいと思いますか？この世に授かった命はみんな同じ。ひとつです。もろさもあるけれど、強さもあります。何かにつまずいても、必ず乗り越えられるし、いくらでもやり直しができます。その“前進”にストップをかけてしまうのは、誰でもなく、自分自身です。

「人は結局独りで生きていくもの」と言う人もいます。でも、「人は結局独りきりで生きていけない」とも言えるんです。産まれたときから、たくさんの人たちの思いを受けて、たくさんの人たちに囲まれているんです。今の自分は、誰かの手（支え）を受けて成長した証しです。

苦しいときは、その“誰か”の顔を思い浮かべてみましょう。そして、助けを求めましょう。その“誰か”は、きっとあなたの力に、支えになってくれるはずですよ。そしてそれを、待っていてくれます。

～『あなたが苦しいときは、私も苦しいし、あなたが自分の体を傷つけば、私も体が痛むよ。私はいつでもあなたの味方だから。弱音を吐いても、泣いてもいいんだよ。あなたは生きていていいんだよ。悩んでも迷ってもいいんだよ。大丈夫。私がついているから。いつでも見ているから。こころから、愛しているよ。』～